

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

受託開始日

2014年2月1日(土)

新規受託項目

項目コード	834102
検査項目名	Viewアレルギー36
検体量	血液 3.0mL (分離剤入り生化学容器)
保存方法	冷蔵
検査方法	蛍光酵素免疫測定法 (FEIA)
測定アレルギー	36アレルギー(吸入系17項目、食物系18項目、その他1項目)
基準値	クラス : 0 index : 0.27 未満
報告様式	index値により、クラス0~6の7段階判定*
所要日数	4 ~ 5日
検査実施料	1,430点 ([D015] 血漿蛋白免疫学的検査「11」特異的IgE半定量・定量の上限)
検査判断料	144点 (免疫学的検査判断料)
備考	※ 測定するアレルギー構成と判定基準については、次頁をご参照下さい。 View アレルギー36は、クラスとindex値の報告となります。特異的IgEイムノキャップのU _A /mLでは報告されませんのでご留意下さい。 アレルギー36種に対し、検査優先順位の指定はお受け出来ませんので、予めご了承下さい。

(注) 裏面もご覧ください

(株)チューケン 日本医薬中央研究所

URL:<http://www.chuken-group.co.jp>

Viewアレルギー36

花粉症、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息などアレルギー疾患は様々な症状を呈し、治療するうえで感作アレルゲンを特定する特異的IgE検査は多くの先生方にお使いいただいております。原因アレルゲンは様々で、且つ一つと限らないため数多くのアレルゲンを検査したいというニーズは高まっています。

「Viewアレルギー36」は少量の採血でアレルギー症状の重要な原因アレルゲン36項目を同時に測定することが可能な検査であり、アレルギーの原因物質のスクリーニングに有用な検査です。必要な検体量は血清0.7mLのため、小児でも多項目の検査が可能となります。

構成するアレルゲンには近年ハウスダストによるアレルゲンの原因物質として認知度が高まりつつある屋内アレルゲンの昆虫(ガ・ゴキブリ)やアトピー性皮膚炎の悪化因子の一つとされているマラセチア、食物アレルゲンでは生卵が陽性で摂取ができなくても加熱卵なら食べることができる可能性の確認が可能なオボムコイドが含まれています。また、患者数が増加傾向にあるOAS(口腔アレルギー症候群)の代表的な症状誘発食品であるキウイ・リンゴ、原因アレルゲンとして判別しにくいサバ・ゴマなど、依頼頻度・陽性率の高いアレルゲンで構成した検査項目です。

従来の「特異的IgE検査」とも高い相関を示し、使いやすい検査となっていますので、患者様の原因アレルゲンの特定をサポートする検査としてご利用下さい。

「Viewアレルギー36」の構成アレルゲン

構成するアレルゲン名称		推定されるアレルゲン群	構成するアレルゲン名称		推定されるアレルゲン群
吸 入	ハウスダスト1	室内塵	食 品	牛乳	食品
	ヤケヒョウヒダニ	ダニ		卵白	
	スギ	樹木花粉		オボムコイド	
	ヒノキ			米	
	ハンノキ(属)			コムギ(実)	
	シラカンバ(属)			ソバ	
	カモガヤ	イネ科植物花粉		大豆	
	ブタクサ	雑草花粉		ピーナッツ	
	ヨモギ			リンゴ	
	アルテルナリア	真菌(カビ)		キウイ	
	アスペルギルス			ゴマ	
	カンジダ			牛肉	
	マラセチア(属)			鶏肉	
	ネコ(フケ)	動物		エビ	
	イヌ(フケ)			カニ	
	ゴキブリ	昆虫		サバ	
ガ	サケ				
その他	ラテックス	職業性アレルゲン	マグロ		

* 各36項目について、個々のindex値とクラスをご報告致します。判定基準は、従来の「特異的IgE」とは異なります。

判定基準

index値	クラス	判定
0.27 未満	0	陰性
0.27 ~ 0.49	1	擬陽性
0.50 ~ 1.79	2	陽性
1.80 ~ 7.04	3	
7.05 ~ 17.34	4	
17.35 ~ 29.30	5	
29.31 以上	6	

構成アレルゲンの主な特徴

【樹木花粉】

代表的なスギ、ヒノキはもちろん、飛散時期が長いハンノキや特に北海道で重要なシラカンバは気道炎症だけでなく、口腔アレルギー症候群(OAS)を引き起こしやすい花粉です。

【真菌(カビ)】

空中真菌として重要なアスペルギルス、アルテルナリアに加え、皮膚常在菌であるカンジダ、マラセチアを検査します。酵母様真菌の一種であるマラセチアは思春期以降のアトピー性皮膚炎患者において高率に検出されます。

【昆虫】

ゴキブリは糞や死骸が抗原となり、気道炎症を引き起こします。ガは屋内外に存在し、特に初夏と秋に空中抗原量が多くなり、喘息、アレルギー性鼻炎の原因となります。

【食品】

食品表示義務項目である、卵白、牛乳、小麦、ソバ、ピーナッツ、エビ、カニを検査できます。食物アレルギーにおいて最も発症頻度が高い卵の関連項目として、オボムコイドは加熱卵の摂取可否の目安となります。食物アレルギーだけでなく、OASの原因物質となる果物のリンゴ、キウイを検査できます。魚類は代表的なサケ、マグロに加え仮性アレルゲンによる症状との判別が難しいサバを検査できます。ゴマは特定原材料に準ずるもの(推奨品目)として新たに追加されました。

【職業性アレルゲン】

ラテックスは通常の感作経路以外にラテックス-フルーツ症候群として、共通抗原性のある果物や野菜の摂取により重篤な症状を引き起こす可能性があります。

特異的IgEとの相関

Viewアレルギー

(クラス)

6					1	16	45
5					44	171	15
4			77	470	41		
3		38	1007	98			
2		121	477	134			
1	89	328	124				
0	1368	77	1				
	0	1	2	3	4	5	6 (クラス)

陽性一致率:95.5%(2634/2759)

陰性一致率:93.8%(1368/1459)

判定一致率:91.3%(4330/4744)

イムノキャップ®特異的IgE

(メーカー検討データ)

検査報告書見本

View アレルギー 36 検査報告書

患者名				様		医師名		殿	
採取日	年	月	日	年齢	性別	担当医	先生		
受付日	年	月	日	材料		科名	入院・外来		
報告日	年	月	日	カルテNO		病棟	階		
受付番号				患者ID					

アレルギー名	クラス (判定)	index 値	クラス(判定域)							
			0	1	2	3	4	5	6	
吸 入										
食 物										

項目名	結果	単位	基準値	0	1	2	3	4	5	6
I g E		IU/mL	170 IU/mL以下	0 0.25	0.27 0.49	0.50 1.79	1.80 7.04	7.05 17.34	17.35 29.30	29.31 以上

推定されるアレルギー群

											
											

検査責任者

* 総合報告書には、インデックスとクラスのみ表示されます。
 詳細につきましては、上記の専用報告書をご参照ください。

表記例

インデックス	クラス	総合報告書表記
0.27 未満	0	L0.27:0
1.83	3	1.83:3
29.31 以上	5	U29.31:5